

2024年度【在学生アンケート】実施結果

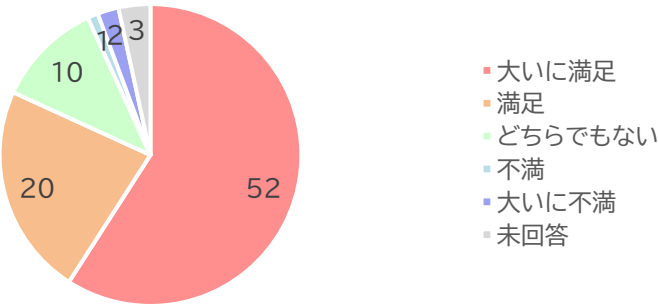
2025年2月19日 教育企画開発センター

【回答期間】 2024年10月22日（火）～11月5日（火）（インターネット回答）
 【対象者数】 在学生 144名（2021年度及び2023年度の入学者）
 【回答者数】 88名 回答率 61% （以下、内訳）

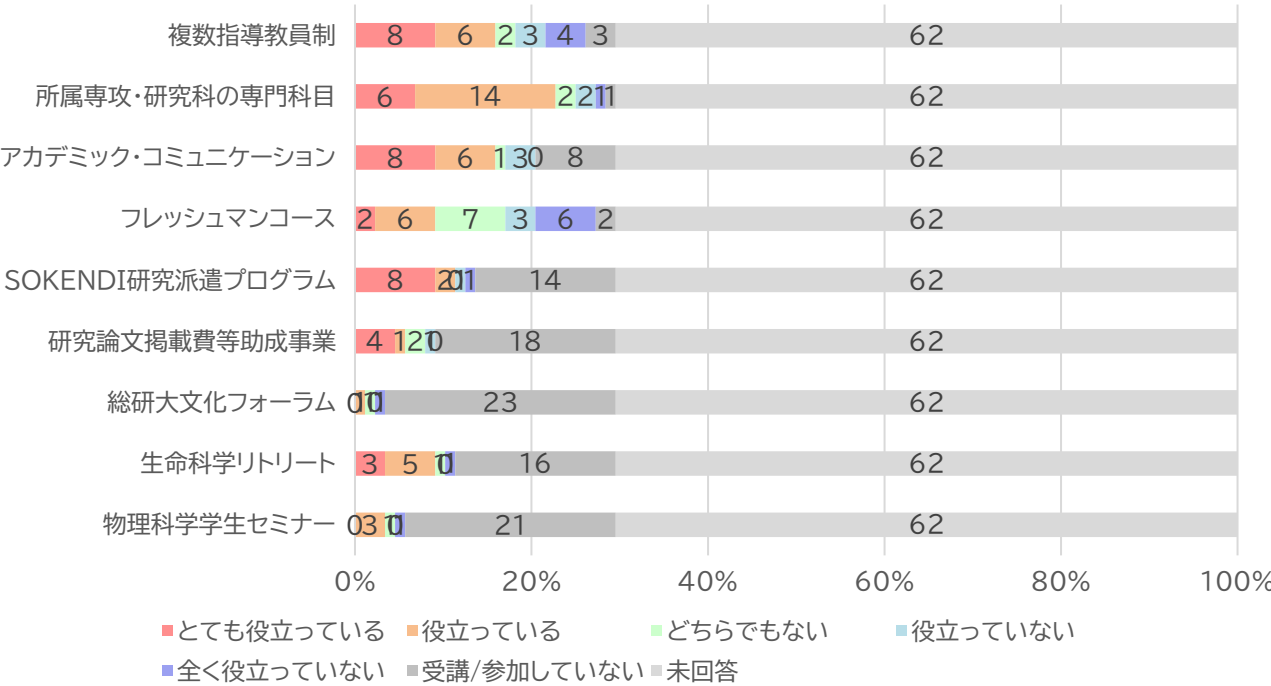
課程	5年一貫博士課程：62名		3年次編入：26名
在学時の状況	留学生：27名	社会人学生：12名	留学生でも社会人学生でもない：49名
研究科（新課程）	先端学術院：56名		
研究科（旧課程）	文化科学：0名	物理科学：8名	高エネルギー加速器科学：9名
	複合科学：4名	生命科学：9名	先端科学：1名

総研大の学修・研究の状況について

1. 現在受けている研究指導（指導教員による指導内容）に満足していますか。



2. 以下の教育プログラム・体制・リソース等について、当てはまるものを選んでください。

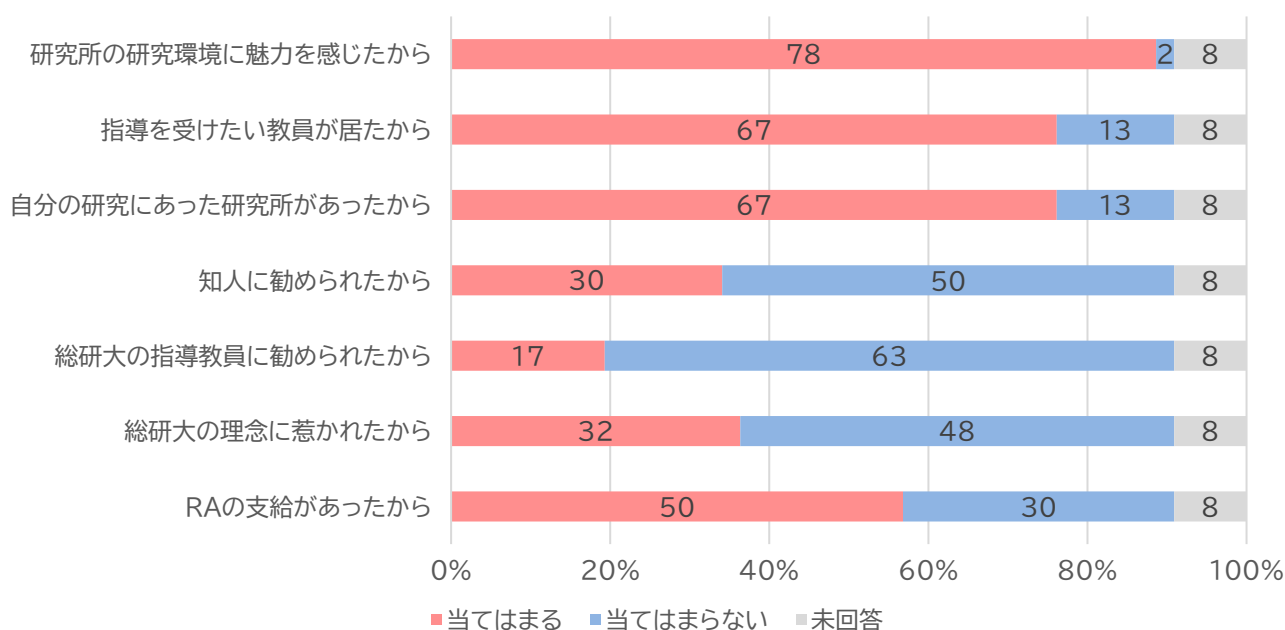


【用語解説】

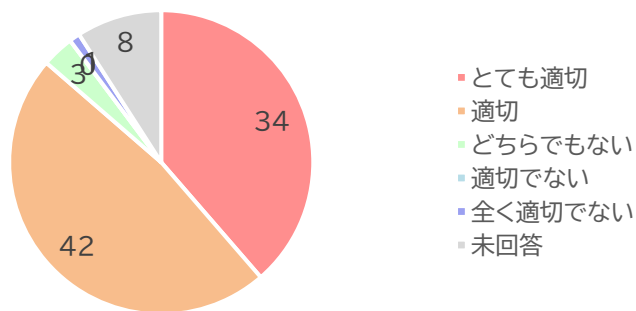
- ・ **複数教員指導制**：1人の学生に2人以上の指導教員が付く、マンツーマン研究指導体制です。
- ・ **アカデミックコミュニケーション（プレゼンテーションやライティング教育）**：研究者を目指す総研大院生が、アカデミックプレゼンテーションおよびライティング等の力を効率的に伸ばすための基本的な方法論を、講義や演習を通して学ぶ教育プログラムです。各専攻で分野の特性に応じたプログラムを展開しており、多くの専攻では英語での研究発表や質疑応答、議論などのコミュニケーションの方法を演習を通じて学んでいます。
- ・ **フレッシュマンコース**：主に新入生を対象とした合宿型の集中講義です。主な目的は2つあり、第一に、研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶこと。第二に、総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築くことです。「アカデミア探訪」、「研究者と社会」、「研究者のための“伝える”技術」の3セクションで構成されています。
- ・ **総研大研究派遣プログラム（H29までの海外学生派遣事業・インターンシップ事業）**：本プログラムは、海外での短期の研究活動や、将来のキャリア構築につながる国内外での長期の共同研究等に主体的に取り組む本学学生に対して必要な経費を支援することを目的としています。
- ・ **研究論文掲載費等助成事業（過去に実施していたプログラム）**：本事業は、本学の学生に対し、国内外で刊行される学術誌等への投稿・掲載に係る費用の全額又は一部を支援することにより、本学の学生が行う博士論文研究を促進・奨励し、当該研究成果を広く国内外に発信することを目的に実施しています。
- ・ **総研大文化フォーラム（過去に実施していたプログラム）**：基盤機関を会場に、文化科学研究を切り口とし、研究科内外の様々な専門分野の教員・学生が研究発表等を行う学際的な交流プログラムです。
- ・ **生命科学リトリート**：生命科学研究という共通基盤を持ちながら専門分野が異なる複数のコース（遺伝学、基礎生物学、生理科学、統合進化科学、および関連分野）の学生・教員が学術交流を行う合宿形式の授業科目です。
- ・ **物理化学学生セミナー（過去に実施していたプログラム）**：物理科学研究科および高エネルギー加速器科学研究科が、物理科学コース別教育の一環として分野横断的に学ぶ合宿形式のセミナー（2年に一度の開催）です。学生中心の企画・運営によって、8専攻の学生と教員が交流します。
- ・ **ROIS若手研究者クロストーク（過去に実施していたプログラム）**：機構における融合研究への取り組みの一環として、異なる分野に属する学生や研究員、若手教員が集まり、普段とは異なる視点から分野を超えた議論を行うことによって、自分自身の研究分野を見つめ直すとともに新たな融合研究の萌芽を目的としたクロストークです。

総研大の入試について

3. あなたが総研大を選んだ理由をお答えください(複数の理由選択可)。



4. 総研大の入試選抜方法（出願方法や入試の方式等）は適切なものでしたか。



学生生活について

5. 以下の学生生活について、当てはまるものを選んでください。

